

誰にも、とやかく言われたくないこと



スマホや SNS のアカウントを、誰でも持って当たり前になってきた現代、携帯電話がビジネスマンだけの持ち物だった時代には目に見えなかった、学校の中のパワーバランスが可視化され、「スクールカースト」という言葉も生まれた。派手で目立つタイプの子は上層、勉強も運動も不得手で目立たず大人しい子は下層、その他大勢は中層…。心底くだらないと思うけど、毎日学校に行くしかない立場に立ってみると、これほど憂鬱で面倒くさいことはないとも思う。何しろ自分の預かり知らないところで、勝手に自分がランク付けされているのだ。関わりたいくないのに、関わらざるをえない状況に追い込まれる。学校から一歩外に出てしまえば、何の意味も持たないようなことに。



小学生の頃、面白いと思っていないことに「興味があるフリ」もできなくて、クラスで 1 番目立っていた気が合わない女の子に、無意味に笑顔を振りまくことも、話を合わせることも、ましてや同じグループに属して一緒に行動するのも無理で、女の子は学年で 25 人ぐらいいたけど、6 年間きっちり通ったのに女友達は片手で足りた。そんな小学生だった私が中学生になって劇的に変わるわけもなく、しかも転校してしまったから、中学校入学当初は友達なんて一人もいなかった。あの当時、スクールカーストなんて言葉があつてランク付けされていたら、私は間違いなく下層だっただろう。

私には兄がいて、読むマンガも見るアニメも聞く音楽もほぼ一緒だった。だから私はクラスの女の子がみんな読んでいた『りぼん』や『なかよし』を読んだことも無かったけど、『THE BLUE HEARTS』というバンドと出会えた。私にとってブルーハーツは、小学生の時に初めて聴いて以来ずっと、私の人生になくてはならない音楽になった。楽しいときも、泣きたいときも、ものすごく疲れているときも、心が病みそうなときも、ただ何気ない日常の中でも、(甲本) ヒロトの声と、何も小難しいことを言わない、ストレートな歌詞にグラグラと揺さぶられ、支えられてきた。CD を聞きながら大きな声で歌って、楽しい気分になっていた曲なのに、あるときには口ずさめないくらい泣けてしまうときもある。単に「大好き」という言葉だけでは語れないし、語ろうとも思わないし、例えブルーハーツの大ファンだと言う人に会っても、ブルーハーツについて蘊蓄を語られたくはない。

『mixi』が画期的な SNS として登場してから、『twitter』『LINE』『Facebook』と見知らぬ人とも繋がれるサービスが世界中で拡散した。本来ならば世界中の人と繋がれるはずの SNS で、学校という目に見える狭い範囲の繋がりを、狭い範囲で見せつけたがる。それがスクールカーストの根底にあるのではないのだろうか。ひとりになるのが怖くて、周りにどう思われているのかと、いつも怯えているぐらいなら、自分の中に確固たるものを見つけることに時間を使ったらいい。今居る場所に縛られる必要なんてない。誰にもとやかく言われたくないと心から思えるものができたら、きっと集団の中にひとりでも、自分の立ち位置は自分で確保できるようになる。そうであってほしいと思う。